

論文内容の要旨

報告番号	空欄	氏名	吉川 元清
Daily salt intake is associated with the leg edema and nocturnal urinary volume in elderly men (和訳) 高齢男性における塩分摂取量と下肢浮腫、夜間尿量との関連性について			

論文内容の要旨

緒言:

夜間頻尿は高齢者を中心に罹患率の高い疾患である。夜間頻尿の原因は夜間多尿である事が多く、夜間多尿と塩分摂取との関連性を示唆する報告が散見される。また、我々は夜間多尿と下肢浮腫との関連性を報告してきた。下肢浮腫の原因の一つは、循環血漿量の増加に伴う、ナトリウムと水分の保持であり、塩分摂取との関連が示唆される。これまで下肢浮腫と塩分摂取、夜間多尿との3要素の関連を調べた報告は無く、今回我々は高齢男性者における、この3要素の関連性について検討した。また、自由水クリアランス、塩分クリアランスを測定することで夜間多尿が水利尿と塩分利尿のどちらが影響しているのかを合わせて検討した。

対象と方法:

60歳以上の前立腺肥大症治療または前立腺癌精査目的で入院加療を行った56例の男性を対象とした。24時間の排尿記録を記載し、午後5時および翌朝6時に InbodyS10 を用いて体組成計測を行い下肢浮腫の評価を行った。朝6時に採血、検尿検査を行い、自由水クリアランス、塩分クリアランス、24時間推定塩分摂取量を計算した。

結果:

排尿記録の不備のあった2例および体組成計測ができなかった2例を除く、52例が解析可能であった。塩分摂取量と下肢浮腫、夜間尿量にはそれぞれで相関関係を認められたが昼間尿量とは相関を認めなかった。偏相関を行うと、塩分摂取と下肢浮腫、塩分摂取と夜間尿量には相関関係が認められたが、下肢浮腫と夜間尿量との相関関係は認められなかった。夜間尿量と自由水クリアランスには相関関係は認めず、ナトリウムクリアランスと優位な相関関係を認めた。多変量解析では、睡眠時間とナトリウムクリアランスが夜間多尿の独立影響因子であった。

結論:

塩分摂取は高齢男性の下肢浮腫を増強させ、昼間ではなく夜間尿量を増加させた。塩分摂取による夜間尿量増加は水利尿ではなく、ナトリウム利尿を亢進させた。この結果より、塩分摂取を減らすことが、夜間多尿の治療につながる可能性が示唆された。